



Harenowa Magazine

— まだ残る、ときめきの余韻

[特集1] 対談

大森 誠一 × 天野 高晟

時代のうつろいの中で色褪せないもの
わが町を謳う『京橋あけぼの通り』

■ 特集2 インタビュー

『クワイエットルームによろこ The Musical』
ミュージカルと掛け合いたい
松尾スズキが自身の小説をミュージカルに

■ 特集3 イベントピックアップ

おかやまインクルーシブフェスティバル2026
～しあわせの魔法～





大森 誠一 × 天野 嵩晟
 時代のうつろいの中で
 色褪せないもの
 わが町を謳う『京橋あけぼの通り』

聞き手 | 守安 涼 / 構成 | 黒部 麻子

ハレノワとアートファームの創作協働事業による、わが町プロデュース公演『京橋あけぼの通り』。戦前から現代までの町の移り変わりを、庶民のささやかな暮らしとともに描きます。これまで「わが町」シリーズをプロデュースしてきた大森誠一さんと、今回演出を務める天野嵩晟さんにお話を伺いました。

「わが町」シリーズは、2017年に岡山芸術創造劇場のプレ事業として始まりました。どんなきっかけがあったのでしょうか？

大森 岡山市の市民協働推進事業として始まりました。まず、旧市民会館のあった内山下からハレノワができる千日前までを歩いて、舞台美術とダンスで表現するというワークショップを行いました。その後、表町、京橋町、西中島町、新西大寺町などを舞台に、朗読劇、映画、ミュージカル、演劇などを行いました。6年間プレ事業をする中で、いろいろな形で商店街の方々と関わり、劇場の中で完結する作品とは違ったアプローチができたと思います。それが「岡山河畔芸術祭」(※)にもつながっていきました。

ハレノワがオープンし、今度はアートファームから提案して始まったのが今回の公演です。「劇場と地域をつなぎ、舞台芸術と市民を結ぶ」というコンセプトは一貫してい

※岡山市街地を流れる旭川の河畔・京橋と中島の両地区を
 主会場に2022年より開催している「アーツフェスティバル」



CONTENTS

- 3 特集1 対談
大森 誠一 × 天野 嵩晟
時代のうつろいの中で色褪せないもの
わが町を謳う『京橋あけぼの通り』
- 6 特集2 インタビュー
『クワイエットルームにようこそ The Musical』
ミュージカルと溶け合いたい
松尾スズキが自身の小説をミュージカルに
- 8 特集3 イベントピックアップ
おかやまインクルーシブフェスティバル2026
～しあわせの魔法～
- 10 ハレノワダイアログ [第8回]
多種多様な表現をつなぎ
新しい文化を育む場へ
話し手:ライブハウス「ペパーランド」主宰 能勢 伊勢雄
- 12 散策 オモテ帖 [9] 食と文化に親しむ朝時間「京橋朝市」
- 13 イベント開催レポート
- 14 主催事業のご紹介・チケット購入案内



ますが、今回は町が主役で、アートは脇役です。町の資源を生かし、魅力を再発見することに、より重点を置いています。

——どんな演劇になるのでしょうか。

大森 当初は大手饅頭伊部屋おおもてまじゅういんべやの話にしようと思っていたんです。ですが、もう少し広げようということで、界限でなりわいをしている人たちにも取材していくことになりました。

大手まんぢゅうのパッケージは梅の花がモチーフですが、あれは2代目お梅さんの功績をリスペクトして作られた。彼女は非常に商才があつて、商標登録を岡山で初めて取ったり、薄皮饅頭にしたりして、昭和のはじめまで切り盛りされ、すごく繁盛して本店は3階建ての大きなビルになりました。でもそれは太平洋戦争のさなか、空襲で焼け落ちてしまう。

天野 今回の舞台にお梅さんは出てこないですが、そのエピソードは入れています。

昭和17年から令和の現代にかけて、実際に起こったエピソードを盛り込みながら、京橋町で生きてきた人たちを描く作品です。僕もオファーをいただいた時にお梅さんの話を伺ったのですが、台本を見たらお梅さん出てこんやん！と（笑）。でもそれがコンセプトとマッチしているんですよ。誰かの偉業とか、ドラマチックなストーリーではなく、そこで暮らしてきた人たちの営みが、時代とともに移り変わりながら現代に繋がっている。

大森 関屋琴三せまやこさんげんぞう絨店という、琴や三味線の製造販売をしているお店も舞台の一つです。昭和30年代、2人の女の子の友情を、紙芝居を使いながら描いています。市民会館の竣工や岡山城の再建など、昭和30年代にはいろいろありました。その後40年代に入り、ジープンショップ・ツシマヤが登場します。電車通りに面したお店です。

天野 その後、平成に入りますが、平成の波ってすごいですよね。昭和と平成は、雰囲気ガラッと変わってくる。

大森 最後は令和7年、京橋朝市が舞台です。小倉の自転車屋さんのお話も出てきます。冒頭と最後には、僕の希望で、河畔芸術祭でやった「月夜の舞流し」という踊りを入れさせてもらいました。

今回、天野さんは演出に関わられて、感触はいかがですか？

天野 大森さんにお声がけいただいたとき、まず「僕でいいんですか？」というお話からさせていただきました。

大森 天野さんはミュージカルとか、ヒーローの立ち回りのような舞台が多いですよ。この作品を通じて、天野さんにいろんな可能性を開拓してほしいという期待も込めてお願いしました。

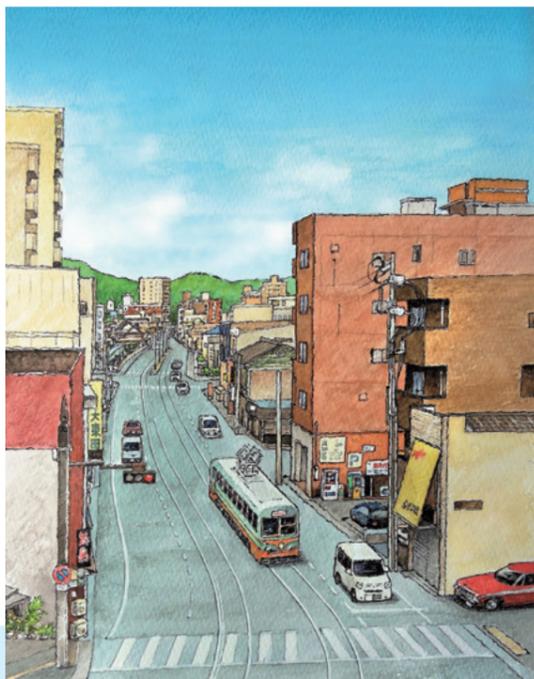
天野 若い頃はストレートブレイのお芝居にもたくさん出てきましたが、最近ちょっと離れていたこともあるので、嬉しいですね。なかなか自分では企画できない内容です。

大森 当初は一人の人に書いてもらおうと思っていたんです。でも、さっきのお梅さんの話じゃないけど、いろんな町の表情を織り込んだ作品にしたかったこともあって、今の形になりました。大塚利昭さん、風早孝将さん、吉野耕桜さんの3人も、それぞれ地域にずっと馴染んできた方です。表現にバリエーションを出しつつ、合作監修の風早さんがうまく繋ぎ合わせてくれました。

何か苦労されていることはありますか？

天野 舞台美術や衣裳が特に大変そうです。よくある舞台だと、そこが大手饅頭伊部屋とか、ツシマヤとか、それぞれで場面の転換がある。だけど今回は、俳優さんたちも常に舞台の上にもたつて、その時代の人として生活してもらおうと思っています。大手饅頭伊部屋にスポットライトが当たっていても、周りでは歩いてたり寝てたり、生活が続いているというのをやりたいな。

ずっと出さずばりで、時代が変わっていくので、その衣裳も必要です。ファッションは時代を映すので、時代背景を追ってちゃんと用意したい。着数がすごいことになりましたね（笑）。



し、自分が住んでる町のことって、意外と知らない。それから稽古のことというところ、僕は基礎練習が大好きなんです。前半2ヶ月は台詞稽古はせず、体作りや声の使い方、五感を用いた表現など、基礎の基礎を練習しました。腹式呼吸一つとってもいろんなやり方があつて、声の出し方もたくさんあるんです。

大森 昔に比べて、地域の劇団が少なくなりました。公演ごとに人を集めて解散っていう繰り返しですが最近多いけど、天野さんのところは、劇団が人を育てていくという機能をちゃんと持っている。それを今回生かしてもらっているのは、本当にありがたいです。

台本は3人の合作ですね。

今回の舞台を、どんなふうに見てほしいですか？

大森 「あけぼの通り」というのは、今回考案した名前です。京橋の港は岡山の表玄関でした。昔は朝から船が行き交い、そうして一日が始まっていた。それでこの名前を思いついたんです。ちょっとシンボリックな言い方をすると、京橋の大手饅頭伊部屋があるあの通りを、みんなに「あけぼの通り」と呼んでもらえるようになるのがこの作品のゴールですね。

天野 僕は今回、町が主役というところが楽しくてしょうがない。表現の一つとして見ていただけると、面白い仕掛けがいっぱいあると思います。いつもの店先から町を眺めるように舞台を見ていたら、気づいたら時代が変わってちょっとタイムリープするよう。ハレノワ小劇場は自由度が高いので、それを生かして、ふわっとした気持ちになれる作品にしたいです。



おおもり せいいち
大森 誠一 (右)

NPO法人アートファーム理事長、旭坐プロデューサー。1950年岡山市生まれ。92年アートファームを創立、2005年NPO法人化。地域と舞台芸術をつなぐ創造・育成・鑑賞・普及・協働事業のほか、県内外の公立文化施設の自主事業を担う。22年岡山河畔芸術祭、24年旭坐を創設し、旭川河畔の拠点形成と地域再生に取り組む。団体として01年岡山芸術文化賞準グランプリ、02年福武文化奨励賞、14年岡山市文化奨励賞。

あまの たかあき
天野 嵩晟 (左)

劇作家、演出家、俳優。1984年広島市生まれ。高校時代に演劇と出会い地元の劇団に入団。その後自身の劇団を主宰し、オリジナル作品を中心に舞台俳優として活動。2015年岡山に転居し、現在の岡山劇団SKAT!!の旗揚げから参加。脚本・演出・演技指導・殺陣指導・アクロバット指導のほか、俳優として舞台・メディアなどに多数出演中。近年では学校教育の現場や市民参加ミュージカルにも赴き、演劇の普及啓発を続けている。

わが町プロデュース公演
『京橋あけぼの通り』

2月7日 13:30開演 / 18:30開演
8日 13:30開演

小劇場
劇作 ▶ わが町クリエイターズ
(大塚利昭、風早孝将〈合作監修〉、吉野耕桜)
演出 ▶ 天野嵩晟 (岡山劇団SKAT!!)
振付 ▶ 花柳大日翠
プロデューサー ▶ 大森誠一

公演詳細・チケット購入はP15へ

『クワイエットルームにようこそ The Musical』

ミュージカルと 溶け合いたい

松尾スズキが自身の小説をミュージカルに

取材・文 | 熊井玲

——「クワイエットルームにようこそ」は2005年に小説として発表され、その後2007年に映画化もされました。ストレスフルな日常を送る主人公が、ある日突然、精神病院の閉鎖病棟に入院することになった……という物語ですが、当初から小説以外の展開を考えていらっしゃったのでしょうか？

松尾 いや、考えていなかったです。女の子の一人称で展開する話で心情吐露のシーンが多いから小説向きかなと思って書いたんですけど、映画化にあたってサブキャラに肉付けをしていった感じです。今回、新作舞台を作るにあたって、最初はショーにしようと思ったのですが、一からショーを作るには準備が間に合わず、中編の「クワイエットルームにようこそ」だったら、ミュージカルにできるのではないかと考えました。

——音楽を先に考えて、台本を構成されたそうですね。

松尾 ものすごく大変でした……(笑)。今まで僕が作ってきたミュージカルは、割と行き当たりばったりに音楽を入れていったんですけど、今回はお話をいくつかのブロックに分けて、「ここはこの主題のショーがあって、次はこの主題のショーがあって……」という感じに考えていきました。そうやって、音楽が入る位置や歌詞を僕がすごく細かく指定していたので、音楽の宮川彬良さんは最初は苦しんでいましたが、台本の中にちゃんとヒントが隠されていることに納得してく

から見つめ直して、必ず新たな核を据えるのが素敵です。「クワイエットルームにようこそ」に関してはいかがでしょうか？

松尾 これまでやってきたのは、ミュージカルを僕らの世界に取り込むということだったと思いますが、今回はミュージカルと溶け合おうということで、タイトルにもThe Musicalとつけて自分の逃げ場をなくしました(笑)。ただ、そもそも僕はミュージカルと僕らがやっている芝居との垣根を取っ払うようなことをずっとやってきたとも思っています。

れてからは、スムーズに進んでいきました。宮川さんは全体の流れを意識しながら作曲してくださるので、さすがミュージカル経験者だなという頼もしさがあります。また笑いの感覚が共有できるので、オープニングからすごくハマったな、いい滑り出しの楽曲だなと感じました。

——主人公を咲妃みゆさんが演じます。咲妃さんにはどのような印象をお持ちですか？

松尾 とにかくキラキラしてますね。なんとも言いえない華がある。ちょっと生真面目なところもあります。今回の芝居で「不真面目という武器」を身につけてほしいなと思っています(笑)。このお話は、主人公の佐倉明日香が病んでいて、でもどうして自分が病んでいるかに気づけていないということが結構大事なので、咲妃さんには「自己評価が低いんだけどプライドは高い、地方から来た子」だと話しました。また今回はミュージカルですから、明日香が歌うというのがすごいスペシャリティだと思っています。もともと咲妃さんの歌声が好きで、歌稽古でも素晴らしいなと思って聞いています。

——2007年に映画化された際、宮藤官九郎さんが「見た後にクワイエットルームを出たような気持ちになれる作品」とおっしゃっていたのが非常に印象的でした。現実が客観視できるというか、シリアスな状態で

——岡山では2月に本作が上演されます。松尾さんはハレノワに立ち寄られたことがあるとか？

松尾 はい。綺麗で見やすそうな劇場でしたね。岡山にはこれまであまりご縁がなかったのですが、最近岡山出身の芸人さんが多いので、感度の高い人が多いんじゃないかなと思っています。そんな岡山の方にこの作品がどう受け止められるのか、すごく楽しみです。

況が笑いで浄化されていく感覚が確かにある作品だと。今回、ショーアップされるということで、現実をより客観視できる、笑いが生まれる可能性が高まるのではないかと思います。

松尾 コロナ禍以降だと思いますが、不寛容な世界にどんどんなってきたって、息苦しさが増していると思います。そういう中で、イノセントな笑いの部分で浄化されたいと思います。

——また、松尾さんはご自身の過去作に取り組まれるとき、作品の時制の調整に留まらず、作品を正面



まつお
松尾 スズキ

1962年福岡県生まれ。1988年大人計画を旗揚げ。1997年「ファンキー〜宇宙は見える所までしかない〜」で第41回岸田國士戯曲賞を受賞。2008年映画「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」で日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞。小説「クワイエットルームにようこそ」「老人賭博」「もう『はい』としか言えない」で芥川龍之介賞にノミネートされるなど、作家としても活躍。2019年に上演した「命、ギガ長ス」が第71回読売文学賞戯曲・シナリオ賞受賞。2020年、Bunkamura シアターコクーンに芸術監督に就任。



COCOON PRODUCTION 2026

『クワイエットルームにようこそ The Musical』

2月22日①・23日② 両日13:00開演 大劇場

作・演出▶松尾スズキ 音楽▶宮川彬良 振付▶スズキ祐朗

出演▶咲妃みゆ、松下優也、昆夏美、皆川猿時、桜井玲香、

池津祥子、宍戸美和公、近藤公園、笠松はる、

りょう、秋山菜津子 ほか

公演詳細・チケット購入はP15へ

おかやま インクルーシブ フェスティバル 2026

～しあわせの魔法～

障がいや生きづらさを抱えながら生きる人たちが表現する言葉や音楽、描かれる色や絵は私たちの世界を豊かにしてくれています。「おかやまインクルーシブフェスティバル」では、そんな多様な作品がまちなかにあふれる15日間をお届けします。

おかやまインクルーシブアワード2026表彰式

「魔法の森のアワードパーティー」

絵画、言葉、歌とダンスで「しあわせの魔法」を多彩に表現

包み込む社会IIインクルーシブを実現するフェスティバル

「生きる喜びと痛みをともに称え合う」をコンセプトに、昨年からはまった本フェスティバル。今年は2月1日(日)〜15日(日)の開催が決定しました。障がいのある人もない人も、年齢や国籍も問わず、地域に暮らすすべての人が文化芸術に親しむ場を目指します。歌、ダンス、絵画、音楽言葉を通して、お互いの違いを楽しみ、認め合い、生きる喜びと痛みをともに称え合ひましょう。

演劇「人生相談天国」 見ず知らずの誰かの人生相談を 即興で演じた先にある結末とは

インクルーシブアワードの終了後は、ハレノワ小劇場で演劇『人生相談天国』を特別公演。老いと演劇を掛け合わせた劇団「老いと演劇」OiBokkeShi(オイボクケシ)主宰の菅原直樹さんを構成・演出に迎え、ワークショップオーディションで選考された国籍も年齢も性別も異なるパフォーマーが舞台に立ちます。

演劇の軸になるのは、匿名で寄せられるさまざまな人生相談。ただしここには「回答者」はいない。誰かの悩みに心を動かされた人が、人生相談をもとに仲間を募り、即興でシーンを演じます。演じることで、解決の糸口が見つかることもあれば、悩みがいつそう深まることも……。知らない誰かの人生が、自分自身の物語と重なり、答えのない結末へ。他者の役を借りて、「生きるとは?」「人生とは?」といった根源的な問いに向き合う新たな演劇プログラムです。公演は17時から。自由席でチケットは有料です。



菅原直樹 撮影：富岡菜々子

同日開催のマルシェ 表町商店街では 2つのマルシェを開催

2月11日(水・祝)は、表町商店街でマルシェイベントも開催します。岡山の大学生が主催する「THE WORLD KITCHEN」では、多国籍料理の屋台やワークショップを出店。食を通して異文化に触れられます。さらに毎年、表町商店街の夏を賑わせている、ありがとうファーム主催の「子ども商店街」とのコラボマルシェもお楽しみください。

2月11日(水・祝)に開催されるメインイベントのひとつが「おかやまインクルーシブアワード2026表彰式」魔法の森の「アワードパーティー」。舞台上にあらわれた「魔法の森」で、魔法使いの大西千夏さんと北村成美さんが大パーティーを開き、審査員の方々とともに受賞者の皆さんをお祝いするという「演劇表彰式」です。アート部門、作文・創作物語部門、パフォーマンス部門の3部門で表彰が行われます。アート部門の審査員には、現代美術作家の平子雄一さん、美術作家の片山康之さんなど岡山にゆかりのある5名の作家を迎え、ハンディキャップアート作品を審査します。作文・創作物語部門では小中学生が書いた作品を対象に、劇作家・演出家の角ひろみさんや小説家の天川栄人さんなど、4名の審査員がグランプリを含む4つの賞を選出。パフォーマンス部門では、最終選考に残った5組が中劇場の舞台で作品を披露します。審査員になるのは観客のみなさん。上演後の投票によって、パフォーマンス部門のグラン

フェス期間中の催し

15日間を彩る展示や公演も。 市内各所で文化芸術にふれる

メインイベント以外にも、フェスティバル期間中にはさまざまな催しが開かれます。全日、岡山駅周辺のホテルや商業施設では、15都府県の作家が制作したハンディキャップアートが展示され、デジタルスタンプラリー企画も予定。さらにプレ事業として、主に2月1日(日)、2月7日(土)、8日(日)に市内各会場で映画の上映や劇団の公演といった関連企画も準備しています。当日は、親子で楽しめるワークショップ(無料)の開催や、公募で集まったボランティアサポーター「はれぶ隊」が来場者を温かくお迎えします。

“しあわせの魔法”を、
ハレノワから表町、そして街へ――
期間中、アートやパフォーマンス、
マルシェで街がひとつになる
お祭りを一緒に
楽しみましょう!



おかやまインクルーシブフェスティバル実行委員会



蜂谷工業プレゼンツ
おかやまインクルーシブフェスティバル2026
2月11日(水・祝) 中劇場、小劇場
構成・演出▶【中劇場】角ひろみ
【小劇場】菅原直樹(「老いと演劇」OiBokkeShi主宰)
出演▶【中劇場】インクルーシブアワード各部門受賞者
【小劇場】オーディションで選ばれた市民

公演詳細・チケット購入はP15へ



北村成美



大西千夏

Imagination, the magic of happiness.

第8回
多種多様な表現をつなぎ
新しい文化を育む場へ

岡山芸術創造劇場ハレノワの渡辺弘劇場長兼プロデューサーが岡山の芸術文化のさまざまな分野で活躍している人たちに、とっておきの話を伺う「ハレノワダイアログ」。今回は、写真家・映像作家として活躍し、ライブハウス「ペパーランド」の運営を通じて半世紀にわたり岡山の文化シーンをけん引してきた能勢伊勢雄さんです。



【話し手】ライブハウス「ペパーランド」主宰
能勢 伊勢雄
【聞き手】渡辺 弘

「ペパーランド」からです。かつてはペパーランドの広告物に漢字で「胡椒帝国」とも書いていました。

イギリスでは、胡椒（ペッパー）は金と同じ価値をもち、大航海時代の経済活動とともに、宣教師たちは船に乗り込み、霊魂によって世界を結びつけようとした。さまざまな表現が行き交い、交わる場所という意味を込めています。

渡辺 単なるライブハウスの運営だけでなく、文化や思想の交流の場を提供してきたわけですね。編集者の松岡正剛とのご縁も長いとか。

能勢 1971年に松岡正剛の雑誌『遊』の創刊を知り、私の拙著『ON CYBORG（サイボーグ論）』を送ったのが始まりです。その交流から、松岡正剛が提唱した「遊学」に基づく研究会「岡山遊会」

を1980年から毎月開催し、今では538回を超えました。

渡辺 さまざまなテーマで講師を招き、参加無料で続けてこられたのは驚きです。能勢さんの活動は本当に幅広いですね。

能勢 文化というのは、孤立させちゃダメなんです。異なるジャンルと繋がってこそ意味を持つ。「岡山遊会」は、専門家を排して専門的に、語る場を目指しています。専門家が自分のテリトリー（領域）を超えて語ることで、閉じこもりがちな認識を打破してほしいと思っています。

渡辺 領域の外に出る発想は、概念のフロチャート「遊図」の考え方にもつながりますね。

能勢 その通りです。「遊図」は、ロジェ・

渡辺 老舗ライブハウスの経営者でありながら、写真家・映像作家としても活躍されています。写真家を志したのはいつ頃ですか？

能勢 小学生の頃から、地元岡山の写真家・山崎治雄先生の家によく遊びに行っていて、先生のやるのを見ながら写真を覚えました。

渡辺 映像作品の制作に移られたきっかけは？

能勢 高校三年生の頃、松本俊夫の著作『映像の発見』に出会い、衝撃を受けました。写真よりも映画のほうがより自由で広がりのある表現ができると感じ、高校卒業後は働きながら大阪シナリオ学校に通い、8ミリで映画を録り始めました。

渡辺 初期の映像作品『共同性の地平を求めて』がたいへん興味深いです。制作された1970年頃は、ちょうど学生運動の時代。当時は高校生も反戦高協（反戦高校生協議会）などで声を上げていましたね。

能勢 それまでのあらゆる価値基準が崩れていった時代でした。演劇では唐十郎の紅テントや佐藤信の黒色テント、鈴木忠

志の早稲田小劇場などのアンダーグラウンドな劇団が登場するなど、演劇のフォーマットそのものが変化していきました。

渡辺 ライブハウス「ペパーランド（PEPPERLAND）」の設立が1974年です。そのきっかけは？

能勢 かわなかのぶひろが主宰した日本アンダーグラウンドセンター（現イメージフォーラム）の活動に参加し、岡山の文化センターで「岡山フィルムアート」としてゲリラ的に上映会を行っていました。そんな活動の中で、ロナルド・ナメス監督の「ウォーホルE・P・I」を上映したんです。

渡辺 ヴェルヴェット・アンダーグラウンドが演奏する、アンディ・ウォーホルのファクトリーの映像ですね。

能勢 この映画に出会い「こういう場所を作りたい」と思って始めたのがペパーランドです。当時の日本には前例がない、映写室を持ったライブハウスでした。

渡辺 名前の由来は？

能勢 ビートルズの映画「イエロー・サブマリン」に出てくる、海底の国「ペパー



スペクタクル能勢伊勢雄1968-2004
岡山・倉敷まちづくり協議会連携事業として倉敷市立美術館を含め6会場、11企画34イベントを実施。

カイヨワが名付けた「対角線の科学」から発想を得ています。例えば、一枚の紙の面のひとつの角に古代史があり、もうひとつの角に音楽があるとします。その異なる領域を折り曲げて重ね合わせる（ミックス・アップする）ことで、交差する「対角線」が生まれる。そこに何が見えるかを語っていくわけです。

渡辺 能勢さんは岡山にいながら、世界的な活動を続けてこられた「スーパーローカル」な存在だと改めて感じます。2004年の展覧会「スペクタクル能勢伊勢雄1968-2004」の図録を拝見し、その充実した内容に圧倒されました。分厚くて細かい字がびっしりと並んだ、まるで辞書のようですね。

能勢 ある一つの国が減ってしまったとしても、地図と年表と辞書が発見されればその存在を証明できる。そんな考えに基づいて展覧会を構成しました。自分の

頭の中にはすでに「遊図」という地図があり、個人史という年表があり、そこに足りなかった「辞書」を加えたというわけです。

渡辺 この辞書からさらに20年の積み重ねを経て、ペパーランドはすでに50周年。岡山芸術創造劇場はようやく3年目です。新しい劇場はいかがですか？

能勢 ハレノワができたことで、岡山のまちにも文化の広がり生まれつつあると感じます。小劇場では写真展を開催していただきました。劇場も、演劇の領域だけに閉じてしまったら寂しくなります。幅広い表現が交差する場として、対角線を描いていくような活動を期待しています。

渡辺 本日は貴重なお話をありがとうございました。

（インタビュアー：2025年11月6日・ペパーランドにて・文中敬称略）



能勢 伊勢雄
ライブハウス「ペパーランド」、「美学校 岡山校」主宰。1947年岡山市生まれ。写真家・前衛映像作家・ドキュメンタリー映画監督・音楽・美術展企画など、岡山を拠点に表現のジャンルを越えた多岐にわたる文化芸術活動を展開。既存の価値観にとらわれず、半世紀にわたり「アンダーグラウンド」に軸足を置き、地域カルチャーの発信と創造に貢献している。2018年福武文化賞受賞。

■ペパーランド 岡山市北区学南町2-7-4
TEL 086-253-9758

毎月第一日曜、岡山市中心部に流れる旭川の河川敷で開かれている「備前岡山京橋朝市」は、毎回120ほどの多彩な店が集う名物朝市。地域色豊かな食や文化、交流が生まれる活気とエネルギーは、変わりゆく市街地の風景に賑わいと希望の光を灯している。



12月に行われた京橋朝市の様子。川沿いのオープンな空間で、ゆっくりと朝ごはんを味わえる。

1989(平成元年)年に岡山市の市制施行100周年を記念して始まった京橋朝市は、これまでの36年間で460回以上開かれてきた。会場はハレノワや表町商店街から徒歩圏内にある京橋町の河川敷広場。船の交通が盛んだった明治時代以前に旭川の玄関口として開かれ、表町の発展につながる商いの中心地であったという歴史を持つ場所だ。

京橋朝市がスタートするのは、まだ辺りが暗い午前4時台。広場には準備のための明かりがポツポツと灯り、夜明けを待たずに客が訪れる。朝焼けに白む頃には人の波が早くもピークを迎え、早朝から10時頃まで、あちこちで行列ができるほどの賑わいが続く。

新鮮な農産物や特産品、加工品、花や

雑貨など、食を中心とした多彩な商品が並ぶほか、地元の人気グルメが味わえる屋台も多数。生産者や出店者と直接会話をしながら買い物をしたり、美味しい朝ごはんを求めて食べ歩きをしたり、川辺に座ってくつろいだり、過ごし方もそれぞれ。老若男女が集う飾らない空気感、地域の食や文化、人との触れ合いを体験できるのも魅力で、近年では観光やスポーツ観戦がてら訪れて、お出かけついでに朝時間を楽しみも増えている。

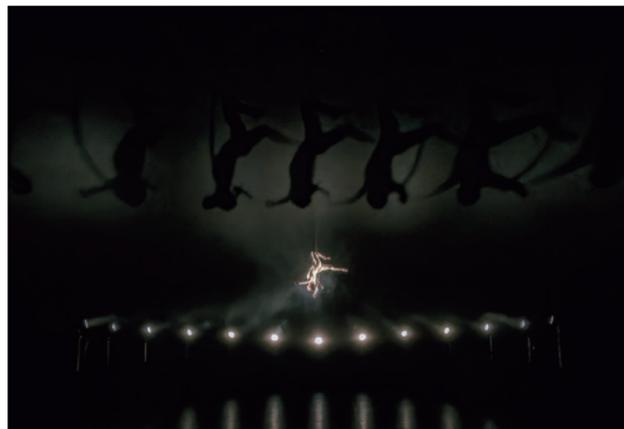
京橋朝市実行委員長の清水孝一さんは、「フードマルシェのブームに乗り、グルメ色の強い朝市として成長しました。今後は農産物や季節商品の販売をより充実させて、地域資源を生かした催しや情報発信にも力を入れたい」と、イベントの魅力アツ



実行委員長の清水さん。地元の表町エリアで医師として働きながら、京橋朝市をはじめとするさまざまな地域活性化事業に取り組んでいる。

ブに意欲をにじませる。冬は甘酒、夏は風鈴など、季節を感じるアイテムを月替わりに振る舞うのも、京橋朝市らしい粋なおもてなしだ。実行委員会は町内会や地域の有志を中心とした組織で運営され、地域イベントの模範となるよう改善も進められている。清水さんは「全世代がグライダーのように共存する組織づくりや、川沿いの賑わい創出につなげることも目標」と語る。生活に溶け込む朝市のように、川辺の風景に自然な人の流れや活気が生まれていくのが楽しみだ。

■備前岡山京橋朝市
岡山市北区京橋町
京橋西詰の河川敷一帯
TEL 086-231-9373
(京橋朝市実行委員会)
開催時間▶ 4:00~10:00ごろ
開催日▶ 毎月第一日曜 (1月は第2日曜)
12月29日 (歳末バザー)
※雨天決行
※詳細は公式サイトで確認を↓



撮影：井上嘉和

イベント開催レポート Event Report

『Disco on the planet』

● 11月8日(土) 18:00開演・9日(日) 14:00開演 中劇場

まだ公演が始まらないうちから、どこからともなく聴こえてくる重低音。それはまるで心臓の鼓動のようにビートを打つ。「何の音?隣の会場の音が漏れ聴こえてるんじゃない?」と隣に座る女性がその隣の連れの女性に話す(後で気づくが、これはジョン・ケージの目論見どおりだ)。そのうち音は次第に大きくなって、舞台は暗転。上手と下手をつなぐキャットウォーク状のブリッジが、まばゆい光を放ちながら幕のように上へと上がる――。

まるでSF映画のオープニングを予感させる『Disco on the planet』。ダムタイプのメンバーとして長く活躍してきた振付家・平井優子は、映像だけでなく「音」「光」を鍵に本作を演出。近未来の惑星を舞台に、コンテンポラリーダンサーの堀田千晶、本間紗世、本城洗樹、土屋望と、バレエダンサーの中川愛生に、サーカスアーティストとして海外経験豊かな吉田亜希と沢入国際サーカス学校出身の目黒宏次郎を迎えた。

現代サーカスではダンスの要素はとても重要で、たとえ

ばアクロバット演技もダンスのように見せる演出が多い。だが一般的に、ダンス経験者はサーカスの基礎(アクロバットやコントーションといわれる柔軟、逆立ちなど)の修得が早い一方で、サーカスアーティストはダンスの修得に時間がかかるといわれる。

そんな中、香川を拠点とする「瀬戸内サーカスファクトリー」で活動を続ける吉田と目黒は、ダンサーらしきやかに動き、指先、足先にまで美しいラインを宿していた。とりわけ、「シル・ホイール」という金属製の輪に乗る演技で目黒は、手放したシル・ホイールをも自在に操り、輪が奏でる音とともに広い宇宙の円環運動を荘厳に表していた。そして平井が当初目論んだとおり、吉田の空中演技「エアリアル・フープ」は、高さを十二分に生かして舞台を3D化しつつ、照明によって浮遊する幻想的な驕りを生み出した。このように、境界を超えることで新たな化学反応を生んだ舞台。こうした表現者たちの未知なる領域への挑戦は、今後ますます増えていくに違いない。

文／西元まり(ライター・サーカス研究者)



テントの下には地元農家の育てた新鮮な食材も並び。

『デスノート THE MUSICAL』

初演から10年が経った人気漫画原作のミュージカルが待望の上演決定!

1月24日(土) 12:30開演○/17:30開演●・25日(日) 12:30開演○ 大劇場
 原作▶「DEATH NOTE」(原作:大場つぐみ 作画:小畑健 集英社 ジャンプコミックス刊)
 作曲▶フランク・ワイルドホーン 演出▶栗山民也
 歌詞▶ジャック・マーフィー 脚本▶アイヴァン・メンチェル
 出演▶加藤清史郎(○出演回)/渡邊蒼(●出演回)、三浦宏規、鞘師里保、
 リコ(HUNNY BEE)、濱田めぐみ、浦井健治、今井清隆 ほか
 料金▶全席指定 S席 13,000円/A席 11,000円/B席 9,000円/U24(B席のみ) 4,000円
 ①24日(土) 17:30回アフタートークあり **チケット好評発売中!**



わが町プロデュース『京橋あけぼの通り』

岡山市街の玄関口として栄えた京橋町の戦前から現代にいたる流転と、
 その地域に根差した人々を全編岡山弁で描くオリジナル演劇作品

2月7日(土) 13:30開演/18:30開演・8日(日) 13:30開演 小劇場
 劇作▶わが町クリエイターズ(大塚利昭、風早孝将(合作監修)、吉野耕桜)
 演出▶天野嵩晟(岡山劇団SKAT!!) 振付▶花柳大日翠 プロデューサー▶大森誠一
 出演▶井上叶望、井上靖子、猪熊翔、小川隆正、小川陽子、金池兼広、杉本祐紀、
 高尾祐梨、灯瓜路加、西原由貴、藤家久美子、安田新汰、吉田風、渡邊尤莉 ほか
 料金▶全席自由 一般前売 3,000円/学生前売 2,000円/高校生以下 1,000円(一般・学生当日は+300円)
 ※未就学児は保護者1名につき1名まで膝上鑑賞無料。座席使用の場合は有料。 **チケット好評発売中!**
 お問い合わせ▶特定非営利活動法人アートファーム TEL 086-233-5175



蜂谷工業プレゼンツ おかやまインクルーシブフェスティバル2026

“生きる喜びと痛みをともに称え合う”をコンセプトに始動。

中劇場で演劇表彰式「魔法の森のawardパーティー」、
 小劇場で特別公演「人生相談天国」を開催

2月11日(水) 中劇場、小劇場

構成・演出▶【中劇場】角ひろみ【小劇場】菅原直樹(「老いと演劇」OiBokkeShi主宰)
 出演▶【中劇場】インクルーシブアワード各部門受賞者【小劇場】オーディションで選ばれた市民
 料金▶【中劇場】無料【小劇場】全席自由 2,000円 **チケット好評発売中!**
 お問い合わせ▶おかやまインクルーシブフェスティバル実行委員会 TEL 086-953-4446



おかやまインクルーシブフェスティバル2024
 撮影: nobuaki murakami

COCOON PRODUCTION 2026

『クワイエットルームにようこそ The Musical』

「大人計画」主宰・松尾スズキの大ヒット小説が新作ミュージカルとして生まれ変わる!
 豪華俳優陣が新たな松尾ワールドをお届けします。

2月22日(日)・23日(月) 両日13:00開演 大劇場

作・演出▶松尾スズキ 音楽▶宮川彬良 振付▶スズキ拓朗
 出演▶咲妃みゆ、松下優也、昆夏美、皆川猿時、桜井玲香、
 池津祥子、宍戸美和公、近藤公園、笠松はる、
 りょう、秋山菜津子 ほか

料金▶全席指定 S席 12,800円/A席 9,800円 **チケット好評発売中!** お問い合わせ▶キョードーインフォメーション TEL 0570-200-888 (平日12:00~17:00)



リーディングドラマ「終わった人」

2023年、全公演ソールドアウトで幕を開け、
 2024年に待望の再演が実現した話題作が満を持して帰ってくる!

3月28日(土) 15:00開演 大劇場

原作▶内館牧子『終わった人』(講談社文庫) 出演▶中井貴一、キムラ緑子
 台本・演出▶笹部博司
 料金▶全席指定 S席 8,800円/A席 6,800円 **ご好評につきチケットは完売しました**
 お問い合わせ▶サンライズプロモーション TEL 0570-00-3337 (平日12:00~15:00)



©山本倫子

2026年度の事業を公開!

Announcing the 2026 Season!

音楽劇『コーカサスの白墨の輪』

果たして、人間は今より「マン」な存在になれるのか——
 ベルトルト・ブレヒトによる演劇作品の金字塔を、
 瀬戸山美咲が「これから」の物語として描き直す

4月18日(土) 14:00開演・19日(日) 12:30開演 中劇場

原作▶ベルトルト・ブレヒト(東宣出版 酒寄進一訳)
 上演台本・演出▶瀬戸山美咲
 音楽監督▶坂井田裕紀
 出演▶木下晴香、平間壮一、sara、加藤梨里香/森尾舞、西尾友樹、
 武谷公雄、辰巳智秋、斎藤瑠希、大久保祥太郎、阿岐之将一、
 酒巻蒼洋、浜野まどか/一路真輝、真島秀和
 料金▶全席指定 一般 8,000円/U24 5,000円
チケット発売▶1月18日(日) 10:00



撮影: 皆川聡

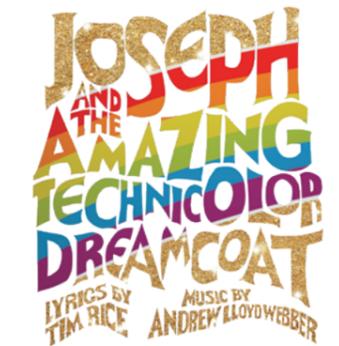
ミュージカル

『ジョセフ・アンド・アメージング・ テクニカラー・ドリームコート』

巨匠アンドリュー・ロイド＝ウェバー伝説の処女作、待望の再演!
 パワフルでカラフルな希望あふれるミュージカルが帰ってくる!

7月4日(土)・5日(日) 大劇場

作詞▶ティム・ライス 作曲▶アンドリュー・ロイド＝ウェバー
 演出▶ダレン・ヤップ 翻訳・訳詞▶高橋亜子
 出演▶藪宏太、シルビア・グラブ/清水美依紗(Wキャスト)、橋本良亮 ほか



※掲載内容は2025年12月18日時点の情報です。今後公演内容や出演者等に変更が生じる場合がございます。 ※チケットの販売状況によって、完売もしくは残り僅かの場合がございます。

チケットの
 ご予約・ご購入

窓口|お電話



岡山芸術創造劇場ボックスオフィス TEL 086-201-2200

受付時間/10:00~18:00(休館日を除く) ※詳細はホームページにて

岡山シンフォニーホールチケットセンター TEL 086-234-2010

受付時間/10:00~18:00(休業日を除く) ※詳細はホームページにて

※岡山シンフォニーホールは改修中のため休館中ですが、チケットセンターは引き続き営業しております。

インターネット
 [24時間受付]



岡山芸術創造劇場/
 岡山シンフォニーホール
 オンラインチケット

<https://piagettii.s2.e-get.jp/ocaticket/pt/>



その他
 プレイガイド

イープラス eplus.jp/ファミリーマート
 チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
 ローソンチケット <https://l-tike.com/>
 ぎんざやプレイガイド TEL 086-222-3244

※公演によって取扱いが異なります。詳しくは各公演の情報をご確認ください。

CHECK IT OUT !

ワークショップ

老いのプレーパーク～ワークショップ編～

演劇を通じて老いに前向きになれる3回連続のワークショップ

● 2月18日(水)・3月11日(水) アートサロン

● 3月19日(木) 小劇場

各日14:00～16:30

講師▶菅原直樹

参加費▶2,000円(3回通し)

対象▶高校生以上。老いや介護に興味関心がある方。
全3回通してご参加いただける方。

申込締切▶2月6日(金)

申込方法などの詳細はホームページをご確認ください。



老いのプレーパーク 岡山・三重ツアー
『老人ハイスクール』『いざゆかん』(2024)
撮影: 富岡菜々子



読者アンケートにご協力ください!

今後の誌面づくりの参考にさせていただきます。

* 回答者全員にハレノワオリジナル壁紙をプレゼント!

回答はこちらから



ハレノワ通信 [WA] VOL.11 2026年1月1日 発行

編集人 渡辺弘

〒700-0822 岡山市北区表町3-11-50

代表 TEL 086-201-8000

発行 公益財団法人岡山文化芸術創造
岡山芸術創造劇場

ボックスオフィス TEL 086-201-2200 (10:00～18:00)

https://okayama-pat.jp/

制作・印刷 株式会社中野コロタイプ

編集協力 株式会社吉備人

記事・画像の転載・複写を禁止します。



岡山芸術創造劇場
ハレノワ

お客様用の駐車場はございません *近隣のコインパーキングや公共交通機関をご利用ください。

*歩行困難者用の駐車区画あり。また、タクシーの降車と福祉車両の乗り入れが可能です。
詳しくは施設担当 (086-201-8016) までお問合せください。

ハレノワ・メンバーズ登録受付中!

登録・
年会費
無料!

【特典1】いち早くチケットを購入できる

【特典2】インターネットから座席を選んでチケットが購入できる

【特典3】お得な情報をご案内

ご希望の方には公演情報や先行発売などのお知らせを
メールマガジンにてお送りいたします。

詳しくはこちらから <https://okayama-pat.jp/member>



ハレノワの
最新情報はこちら



Instagram



X



公式サイト



JR岡山駅からのアクセス【JR岡山駅より路面電車】
東山行▶「西大寺町・ハレノワまえ」下車 徒歩約5分
清輝橋行▶「大雲寺前」下車 徒歩約5分

岡山芸術創造劇場
ハレノワ